

## 「分析支援プログラム」を活用した効果的な取組事例（中学校）

【吉川市教育委員会】

学習指導 要領の内容		設問別・観点別正答率									
		問題番号	通番	評価の観点				記述式	県 正答率	本校 正答率	
				1	2	3	4				
地理	(1)ア	1	(1)	1				○	☆	78.2	65.3
地理	(1)ア		(2)	2				○		85.1	76.7
地理	(1)ア		(3)	3			○	○	☆	45.7	48.3
地理	(1)ア	2	(1)	4			○	○		58.8	65.3
地理	(1)ア		(2)	5		○	○			80.0	74.4
地理	(1)ア		(3)	6				○		91.2	90.9
小学校 3・4 年	(6)ア	3	(1)	7				○		58.1	69.9
地理	目標(4)		(2)	8		○	○			73.7	72.7
地理	目標(4)		(3)	9	○	○	○	○		71.1	71.6
地理	目標(4)		(4)	10	○	○	○			78.6	83.5
歴史	(2)イ	4	(1)	11				○		49.8	57.4
歴史	(1)ウ (2)イ		(2)	12		○	○	○	☆	11.8	10.2
歴史	(3)ア		(3)	13				○		38.0	38.6
歴史	(2)ア (3)ア	5	(1)	14				○		59.6	60.8
歴史	(3)ア		(2)	15			○	○		43.6	30.7
歴史	(2)ア		(3)	16	○		○	○		58.6	61.9
歴史	(2)ア ウ(1)ウ	6	(1)	17				○		66.5	67.6
歴史	(2)ウ		(2)	18			○	○		53.0	58.5
歴史	(2)アイウ(3)ア	7	(1)	19				○		67.4	72.7
歴史	(1)ウ		(2)	20	○	○		○		68.0	68.2

### ＜正答率が低かった問題＞

#### 1－（1）「世界の地域別特色（大陸）」

カンガルーの写真から、国名のオーストラリアはすぐに思い出せるが、大陸の名前としての把握は十分になされていない。他の国々についても、地図上の位置や、地形による気候や風土など総合的に関連づけた理解ができていないと考えられる。地図や白地図等の効果的な活用方法を検討する必要がある。

#### 5－（2）「歴史上の地理的場所」

問題文から「3代将軍実朝」「尼将軍」等のキーワードを拾い出し、鎌倉時代のできごとだと理解するには、史実に関する十分な知識が必要である。加えて、鎌倉の地図上の位置を正しく把握していることが重要であり、歴史上のできごとを単なる史実としてとらえるのではなく、起きた場所と合わせて相関的に捉えさせたい。地理と歴史を関連づける視点を持って学習に取り組ませることが必要だと感じる。

## ＜正答率が高かった問題＞

### 2－（3）「世界の国の位置と特色」

日本と身近な関係にある中国について、歴史的関係や現在の経済的なつながりなどをよく理解し、国の位置なども正確に理解できている。身近な国々については、生徒にとってなじみのうすい経済的な視点を含めて、多くの場面で積極的に取り上げることで、より理解を深めさせる。また、他の教科においても地理的な視点に意識して扱い、多方面から知識を得られるように心がけている。

### 3－（4）「日本の産業の特色・地域の特性を含めて考える」

本来、日本の地域ごとの特性を人口や地理的条件をふくめて考察する力が必要となる問題であるが、グラフを的確に読み取る力があれば、十分正答にたどり着くことができる。社会科においてグラフの読み取り能力は基礎的事項であるので、今後も、グラフを読み取る課題を多く取り上げ、より力を高めていきたい。

### 6－（2）「歴史・時代ごとの特色」

時代ごとの政治・経済・文化等の特色を、時代背景を含めて理解することができていた。歴史学習においてはそれぞれの出来事につながりが大切であり、今後も、その過程や時代の特色を関連付けて理解させていく。

### 7－（1）「歴史資料の活用問題」

歴史上の出来事と関連する資料を結びつける問題である。1つの出来事について、その名称を覚えるだけでなく、さまざまな史実やその理由等を関連させた、一連の事実として理解することができている。今後も複数の資料を関連づけ、一瞬ではなく時間経過の視点のある学習を進めていく。

## ＜課題解決のための社会科授業改善プラン＞

### ① 地理学習と歴史学習の関連を明確にする

- ・授業時の地図の積極的な活用（掛け地図や地図帳を用いて、その地域のみにとらわれることなく、広い範囲で視覚的に確認）
- ・地図資料の工夫（地図を入れた歴史資料づくりとその活用）

### ② 社会科ノート作りの工夫

- ・地図資料をノートに貼ることで、その時間の学習が終わってからも、地理的視点が視覚的に残るようにする。
- ・資料を活用し、資料分析が必要な素材をもって自分の考えを記入させる場面を多く設ける。